



詩集  
Moon Lovers  
VII

たかはしみどり

# Moon Lovers VII

たかはしみどり

## 美月とまひる

---

二人はいつも一緒だった  
ひと時も離れず語り合ってた  
けれどあるとき神様は  
二人を引き離すことにした  
美月は闇夜を見守るように  
まひるは昼を照らすように

美月はまひるに憧れる  
温かく優しい微笑みに  
まひるは美月を愛おしむ  
寂しく冷めた眼差しに  
そんな二人はもう二度と  
会えないことを覚悟する

けれど美月は悲しくて  
夜毎 涙を散りばめて  
たくさんの星を産み出した  
そんな様子に心痛めて  
年に何度かまひるの許に  
会いに行くのを許された

美月が夜空に輝く晩は  
その美しい煌めきに  
影を潜める星たちも  
美月とまひるが会う夜は  
星が主役の midnight party  
時にはしゃいで流れ星

# ALARM

---

ずっとずっと昔の話  
世界にたった一つの  
神様の時計の話

君は知ってる？  
もうすぐ時を告げる  
time signal

君は気付いてる？  
しきりに鳴り続ける  
ring the alarm

早く気付かないと  
手遅れになる  
time limit

希望の扉を開くのは  
君の心に眠る  
true love

心のチューニング合わせれば  
それは誰でも手に入る  
secret code

## Mirror

---

何気なく覗き込んだ鏡  
そこにあるのは別の世界  
いつもと同じ雑踏の街で  
鏡の中だけ静寂の世界  
そこに映る私の姿  
それは男の子だった  
心の真実を映す　それが  
この鏡の正体である  
ここに映し出された男の子は  
私の中のもう一人の私  
優しく静かに語りかけ  
澄んだ目を持つ“ボク”  
私が望めばいつでも会える  
今ここにいる私は  
鏡の中にはいない  
現実の世界では  
見せることのない  
感情を持たない“ボク”  
彼に会うと心が静かになる

## Invitation

---

### After the rain

この雨が止んだら  
あなたを招待いたしましょう  
キラキラ輝く森の雫  
動物たちの舞踏会

### Over the rainbow

街に虹がかかったら  
あなたを招待いたしましょう  
橋のかかった湖の上  
手をつないで渡りましょう

### Twilight zone

真っ赤な太陽沈む頃  
あなたを招待いたしましょう  
夕焼けをカクテルに閉じ込めて  
朝まで語り合いましょう

### Full of the moon

次の満月の夜に  
あなたを招待いたしましょう  
キャンドルの灯の中で  
一緒にワルツを踊りましょう

## 黒い涙

---

富や名声なんか なくていい  
でも僕は何も持ってない  
誰かを守る力も  
誰かを信じる心も  
誰かを愛し抜く勇気もない  
そんな自分が哀れで悲しくて  
体中に痛みが走る  
消えそうな光を頼りに  
ずっと捜し続ける

面子なんてそんなもの  
さっさと捨ててしまえ  
そんなもの持ってても  
何も解決できやしない  
いつまでもそんなもの  
飾りにしておくつもりなら  
このまま一人でいればいい  
つまらないプライドは  
ただ邪魔になるだけ

どんなに涙を流しても  
どんな言葉を並べても  
心に闇があるのなら  
黒い涙が溢れるだけ

## 愛が眠る場所

---

あなたの愛はどこにある  
私の愛はここにある  
けれど誰にも見つけ出せない  
取り出すことができぬよう  
心の奥の底にある  
箱にしまって鍵かけた

私の愛はここにある  
あなたの愛はどこにある  
誰もたどり着くことのない  
誰の目にも留まらぬ場所に  
光の届かぬ海の底  
そっと暗闇に沈めたよ

誰の愛も受け入れない  
私は私を疎外する  
あなたもそんな人だから  
受け入れられたのかもしれない  
あなたのそばが心地いい  
ここが私の指定席



## 忍び寄る影

---

そこにいるのは誰  
目を閉じていても感じる気配  
しんと静まる暗闇に  
突然鳴り響く雷鳴  
わずかに開いた窓から  
吹き込んでくる風  
揺れるカーテン きしむドア  
手から落ちてくワイングラス  
飛び散る破片で傷ついた頬の血  
どこからか狙う 忍び寄る影  
そっと優しく闇に触れると  
魔の手は遠く逃げ去った

## I wish...

---

罪人と書いて にんげん と読む  
未熟であって迷いもあり  
拘束したがるほど我儘であり  
偽善的な行ないをしつつ  
残虐で破壊的なもの  
傲慢さも欲望もあり  
狂気の世界に動揺しながら  
後悔や幻滅を味わった結果  
人生を無駄とし諦める  
醜い争い 怠惰な生活  
非情と書いて にんげん と読む  
しかし本来あるべき姿は  
寛大さや優しさを持ち  
自由で幸福でなければならない  
単純なことで満足する  
愛情と書いて にんげん と読む  
そんな人でありたい

詩集Moon Lovers VII

<http://p.booklog.jp/book/73361>

著者：たかはしみどり

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/midri7911/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/73361>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/73361>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ